

# 2015 年度活動報告 交換授業：レギュラー1-1（自己表現）

蔭山 拓（関西学院大学日本語教育センター）

## 1. クラス概要

初級前半の学習者対象で、週1コマのクラス（学生数6名）である。クラスの目標は、いろいろなテーマで初級レベルの文型や単語を使って自己表現（話す・書く）ができるようになる、また、そのような言語活動に従事できるようになることである<sup>1</sup>。使用教材は、『大地①』（スリーエーネットワーク）を基に担当者らが作成した自作教材（ナラティブ<sup>2</sup>、ナラティブのQAシート、復習クイズ等）である。

## 2. 授業内容

各課、ナラティブを基に、大きく以下の①～⑦の学習活動を一つのユニットとする。①ナラティブの理解、②ナラティブの朗唱練習、③ナラティブのQS練習（ピアワーク）、④エッセイの作成（宿題）、⑤エッセイのフィードバックと朗唱練習、⑥エッセイの読み聞かせ合い（ピアワーク）、⑦ナラティブの復習クイズ。そして、以上の一連の学習活動を通して、所定のテーマに関する書記ならびに口頭言語の受容と産出両面の言語活動従事経験の積み重ねと、同活動従事に必要・有用な言語事項（語彙や表現など）の習得を図る<sup>3</sup>。

今期の新たな取り組みとして、自身の書いたエッセイによって学んだことばへの習熟を更に促進し、また、クラスの学習目標の達成状況をより適正に測定することなどを目的として、定期試験における口頭試験を学期中に書いたエッセイ（2作品）の発表とその内容に関する学習者同士の質疑応答という形式で実施した。

## 3. 成果と今後の課題

授業中の学習者の反応も期末アンケートの評価も概ね良かった。定期試験の口頭試験の試みについては、発表のパフォーマンス自体も全体に向上した印象を受けたし、また、パフォーマンスの評価についても客観性・妥当性・公平性などの点で改善されたと考える。今後の課題としては、ナラティブの改良ならびに副教材の拡充などが挙げられる。

<sup>1</sup> 本クラスは、初級日本語教科書『大地①』を主教材として週2コマで進められる文法・漢字のクラスと並行して行なわれ、同クラスで学習した言語事項に基づいて実際の言語活動従事あるいは言語運用の経験を積み重ねていくことを主眼に置いている。

<sup>2</sup> 西口（2012）の基礎日本語教科書『NEJ』で提唱されているSMTアプローチにおいて学習活動の中心となるテキスト。各ユニットの所定のテーマに関する、架空の人物のナラティブ（語り）の形で構成され、実質的な学習内容となる語彙や文型などが体系的に配置されている。本クラスでは『大地①』の学習内容を基に作成したオリジナル・ナラティブを使用。

<sup>3</sup> 教育の原理としては、バフチンの対話原理を基にした西口（2013）のSMTアプローチに基づく。